

2017年9月実績概要(メモ)

(2017. 10. 19)

エチレンをはじめ各誘導品の生産は対前年比でほぼ全ての製品が伸張。

1. 生産動向

イ) エチレン 534,400トン

前月比 ▲ 4.6% (▲25,900トン)

前年同月比 +13.6% (+64,200トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	▲ 3.2%	-
定修要因等	▲ 1.4%	+ 13.1%
能力増減	-	-
稼働率変動	▲ 0.0%	+ 0.5%
生産増減率	▲ 4.6%	+ 13.6%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月95.5%→当月95.5%←前年同月95.1%

定修プラント：前月1社1プラント→当月なし←前年同月2社2プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数減とともに定修規模差等からLD、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、MMAモノマー、EG、AN、ベンゼンなどの9品目がマイナス。PP、PS、SM、BR、トルエンなどの8品目は稼働率要因や定修規模差等からプラスとなった。

前年比では、主として稼働率要因や定修規模差からLD、HD、PS、SM、MMAモノマー、EO、AN、BR、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの16品目がプラス。塩ビモノマーのみがマイナスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況(LD、HD、PP、PS)

イ) 生産

前月比では、LDは日数減と定修規模差からマイナスとなった。HD、PSは稼働率要因、PPは定修系列数の減少と稼働率要因からそれぞれでプラスとなった。

前年比では、主に稼働率要因や定修規模差からHDで大きな伸びとなったのをはじめ4樹脂でプラスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比では、前月が夏期休暇に伴うユーザー側の稼働日数の減少からマイナスとなった。当月は稼働日数も増加し4樹脂揃って二桁台のプラスとなった。

前年比では、LD、PPではフィルム分野や射出成形分野の出荷が増加し、プラス若しくは前年並み、PSは電機・工業分野等の出荷が増加しプラスとなった。HDは在庫水準が低位に推移している状況から当月の出荷は前年並みに留まった。

ハ) 輸出

国内向けの出荷増加から輸出玉は絞られており、前月比ではPPのみがプラス、HD、PSはマイナスとなった。前年比ではLD、HD、PPでマイナスとなっている。

ニ) 在庫

在庫量は、HD、PSでやや増加、LD、PPは減少した。在庫率(季節調整済)は前月に対してLD、HD、PP、PSで上昇したが、在庫水準としては4樹脂ともほぼ適正水準の範囲内にある。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率(単位:ヶ月)	
		8月末	9月末
LD	▲12,700	2.9	3.0
HD	+13,500	2.4	2.8
PP	▲3,500	2.5	2.7
PS	+4,600	1.4	1.6

以上